



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2018.9

No. 414

日本野鳥の会 埼玉

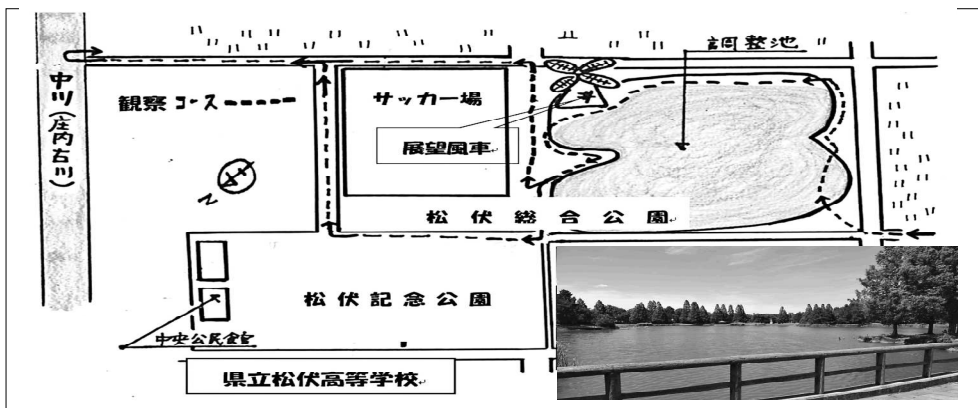
S H I R A K O B A T O



松伏総合公園&松伏記念公園及び周辺の野鳥たち

尾上 愛実 (松伏町)

春分と秋分の頃に、隣接するこれら2つの公園とその周辺で、毎年探鳥会を開催(松伏町中央公民館共催)しています。今月号は、ここをフィールドとして観察を続けている尾上さんに、この付近の野鳥について紹介していただきます。



●私は小学校4年生の時から、この2つの公園を中心にバードウォッチングを続けてきました。現在バードウォッチング歴5年目の中学3年生です。公園は四季折々の風景を堪能しながら野鳥を観察できるすてきな公園です。

2013年10月から2018年6月上旬まで、公園とその周辺で観察できた野鳥たちを季節ごとに表にまとめました(右ページ)。計87種が確認できています。

実は2014年11月4日に、上空をV字型の編隊で飛ぶ10羽ほどの大型の鳥を見えています。大きさ・形・色からマガンではないかと思っていますが、表には入れていません。

●私が、最も印象に残っている鳥はコアジサシです。

今年の春は、コアジサシを公園近くの田んぼで例年よりもよく見かけました。

ある日の夕方、田んぼの畔にコアジサシが1羽止まっていた。しばらく見ていると、もう1羽のコアジサシが鳴きながら飛んできて、その止まっていた1羽のコアジサシに、求愛給餌をしました!!

その後その2羽は、私の近くを飛んでくれ、

その美しい姿に見とれてしまいました。コアジサシの純白色が太陽の光と田んぼの緑に映えてとても美しかったです。

そして、何より声が鋭くてきれいなことに気が付きました。「キリキリキリッ」というシャープな鳴き声は特に印象に残っています。その後、3日間は、登校中にその声を聞くことができ、とても幸せな時間を過ごすことができました。

ほかにも印象に残っている鳥をいくつか紹介します。

●1つ目はオオルリです。

春、新緑の公園の中を歩いていると、きれいな声が聞こえてきました。「ピールーリージッ」という鳴き声をもとに姿を探すと、緑の中に見え隠れするオオルリを見つけました。

生い茂った木々の中では、特徴である青色が暗く見え、目立たないことに驚きました。その代わりに、柔らかな白い色のお腹と黒い額が目立ちました。そのきれいな声と姿が、新緑の中でとても印象的でした。

●2つ目はカワセミです。

この公園では、池の周りでよくカワセミを見ることができます。番いのことが多く、「チ

ーッ」という高い声で鳴きかわしたり、求愛給餌をしたりと仲睦まじくしている姿を見ることができています。

また、観察していると上面の碧や青は木々の緑の中では目立たず、腹のオレンジは枯れたヨシの中だと見つけにくくて、きれいな色なのは保護色の意味もあるのだな、と納得しました。

●3つ目はハヤブサです。周辺の田んぼでは、秋冬にタカやハヤブサの仲間をよく見ることができます。

ある冬の日、ハヤブサが「ケーケーケー」とチョウゲンボウより低めの声で鳴きながら、私のいる方へ向かって飛んできました。見ると何か大きなものをつかんでいます。すると「ドンッ」と鈍い音がしてそのつかんでいるものを落としてしまいました。落としたものはドバトでした。なぜ落としたのかはわかりませんが、ハヤブサが足でドバトの胴体をつかんで飛ぶ様子が間近で見られました。

●4つ目はノスリです。

ある秋の日、ノスリが獲物をつかんで飛んでいました。その姿を目で追っていると、チョウゲンボウとハシブトガラスが現れ、ノスリを追い始めました。そして、獲物をめぐり3種のバトルが始まりました。結果、ハシブトガラスがチョウゲンボウを追い払いました。その後、ノスリは中川の土手に降り立ち、ガラスが邪魔してくるのを無視して、獲物のネズミを食べていました。鳥の生態系の一端を知る貴重な体験でした。

●公園とその周辺で、沢山の野鳥を確認しました。豊かな自然があるからこそだと思っています。

しかし、東側の中川（庄内古川）沿いに東埼玉道路の建設が始まっています。このあたりの生態系が変化するかもしれません。だから、できる限りここでの観察を続けていきたいと思えます。

※9月23日（日・祝）、当地での探鳥会が計画されています。アクセス等は行事案内をご覧ください（編集部）。

番号	鳥種	春 3~5月	夏 6~8月	秋 9~11月	冬 12~2月
1	キジ	○		○	
2	ヒドリガモ	○		○	○
3	マガモ	○			○
4	カルガモ	○	○	○	○
5	ハシビロガモ			○	○
6	オナガガモ	○		○	○
7	コガモ	○		○	○
8	ホシハジロ			○	
9	キンクロハジロ	○			○
10	スズガモ			○	
11	ミコアイサ			○	○
12	カイツブリ	○		○	○
13	キジバト	○	○	○	○
14	カワウ	○	○	○	○
15	ゴイサギ	○	○	○	
16	アマサギ	○	○	○	
17	アオサギ	○	○	○	○
18	ダイサギ	○	○	○	○
19	チュウサギ	○	○	○	
20	コサギ	○	○	○	○
21	クイナ	○			
22	バン	○		○	○
23	オオバン	○		○	○
24	カッコウ	○			
25	ムナグロ	○			
26	コチドリ	○			
27	タシギ			○	
28	クサシギ	○		○	
29	キアシシギ	○			
30	インシギ	○			
31	エリマキシギ	○			
32	ユリカモメ				○
33	コアジサシ	○			
34	トビ			○	○
35	ハイタカ			○	○
36	オオタカ	○		○	○
37	ノスリ	○		○	○
38	カワセミ	○	○	○	○
39	コゲラ	○	○	○	○
40	チョウゲンボウ	○		○	○
41	コチョウゲンボウ				○
42	ハヤブサ	○		○	
43	サンコウチョウ			○	
44	モズ	○		○	○
45	カケス			○	
46	オナガ	○	○	○	
47	コクマルガラス			○	○
48	ミヤマガラス			○	○
49	ハシボソガラス	○	○	○	○
50	ハシブトガラス	○	○	○	○
51	ヒガラ			○	○
52	シジュウカラ	○	○	○	○
53	ヒバリ	○	○	○	○
54	ツバメ	○	○	○	
55	イワツバメ			○	
56	ヒヨドリ	○	○	○	○
57	ウグイス	○		○	○
58	センダイムシクイ	○		○	
59	メジロ	○		○	○
60	オオヨシキリ	○	○		
61	セッカ	○	○	○	
62	ムクドリ	○	○	○	○
63	トラツグミ			○	
64	シロハラ	○		○	○
65	アカハラ	○		○	○
66	ツグミ	○		○	○
67	ジョウビタキ	○		○	○
68	ノビタキ			○	
69	エゾビタキ			○	
70	コサメビタキ			○	
71	キビタキ			○	
72	オオルリ	○			
73	スズメ	○	○		○
74	キセキレイ			○	
75	ハクセキレイ	○	○	○	○
76	セグロセキレイ		○	○	
77	タヒバリ	○		○	○
78	アトリ	○		○	○
79	カワラヒフ	○	○	○	○
80	マヒワ	○			○
81	シメ				
82	ホオジロ		○	○	○
83	ホオアカ	○			
84	カシラダカ	○			○
85	アオジ	○		○	○
86	クロジ	○		○	
87	オオジュリン	○			

マイフィールドでオオムシクイ!

石川敏男 (春日部市)

春日部市谷原新田・武里中野の両大字の境。春の渡りの季節になると、マイフィールドとしている自宅近辺にもサギ類、ムナグロ、キアシシギ、タシギなどがやってくる。

いつもより早起きして、今日は何が飛来しているか、何羽入っているかと期待して見てまわる。これが楽しみとなり、しないとどうも落ち着かない。

毎日の朝探コースにしている場所で、市立谷原中学校南東側の校庭樹と谷原親水広場北端の樹が隣接しちょっとした林、というより木立になっているところがある。全て植栽樹で前者はケヤキ、プラタナス、ビャクシン、フジ、サクラなど、後者はスダジイ、クヌギ、コナラ、ヤマボウシなどだ。

6月1日午前7時20分頃、近くのサッカー場からヒバリの囀りが聞こえ、これに重ねるように別の鳥の声がした。ヒバリよりは低く「ジュジュジュジュジュ…」のようで、聞いたことがない。

クヌギ樹枝内をせわしく動く1羽の小鳥の影。双眼鏡で注視すると、体上面はオリーブグリーン、下面は白、顔にははっきりした白い眉斑がありムシクイ類だ。

声からセンダイムシクイではなさそうだ。だとすると、渡り时期的にはメボソムシクイ、コムシクイ、オオムシクイあたりか? こいつはちょっとやっかいだな。識別できそうもない。

取り敢えず証拠写真でも撮ろうとしたが、動きが早くて、結局、ぼけた後ろ姿1枚のみ。暫時観察を続けると、地鳴きと思われる「ギッ、ギッ」との2音連続を發した。

帰宅して早速手元の図鑑をチェック。

メボソムシクイは「ゼニトリゼニトリ(銭取り銭取り)…」で、夏山登山の際に聞き覚えがあり、また地鳴きが異なる。

水谷高英・叶内拓哉(2017)『フィールド図鑑 日本の野鳥』(文一総合出版)のp312 オオムシクイでは「…渡り途中では平地や山地の広葉樹林にも入る」「渡来が遅く、6月頃に本

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●カラアカハラ

英名 Grey-backed Thrush

学名 *Turdus hortulorum*

分類 スズメ目ヒタキ科ツグミ属

2018年5月11日付け朝日新聞朝刊によると「秩父市在住の日本野鳥の会会員(当会埼玉には未入会)が、同年5月6日に秩父地方の山林において写真撮影した鳥が、山階鳥類研究所の専門員によりカラアカハラ♂と同定された」とのこと。掲載された写真は不鮮明ながら、補正・拡大して確認してみると、その同定に特に矛盾は見当たりません。

当委員会は、このたびの新聞報道を客観的に信頼できる情報と判断し、本種を343種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種はシベリア南東部から中国北東部で繁殖し、中国南東部からベトナム北部で越冬します。我が国では、主に日本海側の地方で稀に記録される旅鳥です。

州を通過する」とある。

高野伸二(2015)『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版(公益財団法人 日本野鳥の会)のp256では「地鳴きはオオムシクイが固い感じの『ジッ』、コムシクイがやや高い『ピッ』だが良く似ていて、2音連続して発することもある」との記載。

う〜ん、迷うなあ。でも、コムシクイは迷鳥で渡りルートが違うから考えにくい。

そこでネットでオオムシクイの地鳴きを検索してみたら、私の聞いた地鳴き「ギッ、ギッ」と同じ2音連続を確認できた。

図鑑では「ジッ」とあるが、聞きようでは「ギッ」とも聞こえると思う。

念のためコムシクイの地鳴きも確認してみたが違っていた。

日が高くなってから現場再訪するも姿なし。私にとってのオオムシクイ初認となった。



野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月1日、グラウンドにツグミ約30羽。アカゲラ♀がまだいた。元荒川にコガモ、ヒドリガモ、コチドリ2羽。上空をツバメが飛翔。4月8日、元荒川でコガモ、カルガモ、ヒドリガモ。グラウンドにツグミ約20羽、ムクドリ10羽。ツグミがぐぜっている。ハクセキレイの囀り、上空にチョウゲンボウ。カワセミの番いが釣堀に（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根～野孫 ◇4月3日、高曽根にケリ1羽、野孫でケリ2羽、タヒバリ約20羽の群れなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区樹 ◇4月8日、胸が薄赤っぽくなってきたタヒバリ10羽の群れが採餌に夢中。ムナグロは見つからず（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜周辺 ◇4月8日、ヨシ原でホオジロ♂1羽、夏羽が実に美しい。アリスイが飛んで来て近くのブッシュに入り込む。沼には、ダイサギ、コガモ、オオバン、カイツブリ。干潟上の地面にコチドリ1羽。モズとシメ約15羽の群れ出現。国立東埼玉病院内でアカハラの小群（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区膝子 ◇4月14日、ふと車中から見上げると、上空を舞うサシバ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市浦和区木崎3丁目 ◇4月24日、見沼代用水の斜面林で「グルルル…」と声はするもののキビタキ見えず。4月26日、同様の場所でブッシュの暗がりでも虫を食べるキビタキ♂1羽。4月27日、同所で「チヨチヨビー」とセンダイムシクイの囀りが響き渡る。5月25日早朝、甘く大きな囀りにビックリして探すと、ガビチョウ1羽が出現。飛び去った（鈴木紀雄）。

上尾市地頭方 ◇4月26日午前6時20分頃、コチドリ♂♀。よく見るとシロチドリ♂♀もいた。4月29日午前6時20分頃、カルガモ親鳥1羽、雛7羽。帰り道で鳥の優しい鳴き声が聞こえてきたので、しばらくその場で待っているとコジュケイ親鳥1羽幼鳥

3羽。5月4日～6日午前6時10分頃、近くでカッコウの声。5月13日～14日午前6時20分頃、犬の散歩中に変わった声の野鳥を見る。鳥の本にはノゴマと書いてあった。竹林でエナガ12羽（村越百合子）。

さいたま市西区島根 ◇5月11日、水田でムナグロ約30羽、ダイサギ、コサギ、アマサギ、コチドリなど（大塚純子）。

秩父市浦山口～武甲山 ◇5月12日～13日、声だけのものを含め、カルガモ、カワセミ、ダイサギ、カワウ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ツツドリ、ホトトギス、ジュウイチ、アオバト、ヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、ウグイス、ヤブサメ、ミソサザイ、センダイムシクイ、メボソムシクイ、アカハラ、ツバメ、スズメ、ハクセキレイ、シジュウカラ、イカル、ヤマガラ、ヒガラ、コガラ、キジバト、カワラヒワ、ウソ、キジバト、ガビチョウ。ウソは武甲山山頂で口笛でまねをしたら♂がやって来た（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇5月24日午前7時、ピクニックの森でツツドリの声が響く。ガビチョウの声が多い。6月2日午前7時30分、同所でミドリシジミを撮影していると、ガビチョウの声の中から、突然、サンコウチョウの囀り。声を頼りに探してみるが、姿は見えず（藤原寛治）。

さいたま市の鴨川 ◇5月29日、島根橋付近～植田谷堰でカルガモの親子（幼鳥7羽）。他にマガモ♀、ハシビロガモ♂、オオバン各1羽（いずれも居残りか？）など（大塚純子）。

渡良瀬遊水地 ◇6月1日、ヨシ原はオオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、オオセッカの大合唱。オオセッカの囀り飛翔も良く見ることができた。カッコウ、ホトトギスの声。ヨシゴイの飛翔1回だけ。低音の「ボウー」はサンカノゴイか？（鈴木紀雄）。

鴻巣市大間一丁目 ◇6月4日午前9時28分頃、ツツドリの声が数声、遠くのほうから聞こえてきた。我が家でツツドリの声を聞くのは初めて（榎本秀和・みち子）。

蓮田市西城沼公園とその周辺 ◇6月9日、

東沼周辺のヨシ原でオオヨシキリが数羽囀っていた。6月13日、ハシブトガラスの巣立ち雛が2羽、親ガラスに餌乞いしていた。6月26日、ツバメの巣に雛が見えた。5羽が周囲を飛んでいた。カワラヒワ2羽、メジロ1羽、シジュウカラ囀り、ムクドリ3羽、スズメ2羽。6月30日、ツバメの巣に雛が5羽。親ツバメが頻りに餌を運んでいた。ハシブトガラスの巣立ち雛5羽が林床で餌探し。親は見当らない。スズメ17羽、ブロック塀から休耕畑に次々に舞い降りた。巣立ち雛が混じていたようだ(長嶋宏之)。

幸手市中川河川敷 (54390691、54390690)

◇6月10日、カルガモ2羽、キジバト7羽、ゴイサギ1羽、チョウゲンボウ2羽、ハシブトガラス3羽、シジュウカラ1羽、ツバメ3羽、ムクドリ26羽、ホオジロ4羽、カワラヒワ1羽、キジとヒバリの鳴き声など(荒川貴之)。

越谷市 ◇7月号でイソヒヨドリの観察例とその考察を読んだが、6月12日午前11時30分過ぎ、隣のお家の畑にイソヒヨドリ♂が囀りながらいるところを見た(下写真)。その日以降、現れることはなかったが、まさか自宅で見られるとは思っていなかったので幸せでした(平田夕香里)。



吉見町吉見総合運動公園 ◇6月12日、ヒバリが多数(県内でも多い方にランクされると思う)。オオヨシキリが多数。キジ♂が足元から飛び立った。イソシギ1羽が河岸で採餌。ホオジロが囀っていた。他にカワラヒワ、ヒヨドリ、ツバメ、セッカ、シジュウカラ、ウグイス、コゲラ、ムクドリ、トビ、カルガモ、ダイサギ、アオサギ、カワウ等(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町下栢間 ◇6月13日午前6時10分、大御堂橋下流土手上的電線にモズ4羽。こんな複数は初見。逆光で♂♀不明(小貫正徳)。

嵐山町蝶の里公園 ◇6月22日午前11時頃、ホトトギス鳴く。すぐ近くで鳴いているのだが、姿見えず。7月1日、ホトトギス鳴く。複数のタマムシが産卵場所を探して飛び回っていた(藤原寛治)。

春日部市武里中野&谷原新田 ◇6月27日午後5時50分、谷原親水広場北端の木立に近い電線に6羽のコムクドリだけがとまっていた。♂4羽、♀1羽、不明1羽の小群だった。7月になってからその姿を見かけるのが普通だが、早くも南下するために平地にやって来たのだろうか(石川敏男)。

久喜市芝山枝郷栢間沼 ◇6月29日午前6時50分、カルガモ親子6羽。午前7時、カントリーエレベーターでチョウゲンボウ親子3羽(小貫正徳)。

越谷市西方 ◇6月4日午後3時過ぎ、コアジサシ22羽(抱卵の姿勢14羽、その他8羽)。壁やフェンスで囲まれた工事現場。非会員の方からの情報。6月13日午後1時過ぎ、ヒナ5羽を確認。すでに歩き回っている個体もいる。去年は同所付近で1番いが繁殖したのを確認。6月26日午後3時30分頃、コアジサシ何かに驚いて一斉に飛び立つ。50羽士を数える。それにヒナの数を加算すると総数はかなりの数が考えられる。7月3日午前9時頃、コアジサシが近づいた猛禽(おそらくチョウゲンボウ)迎撃のため一斉に飛び立つ。43羽。30分後、各ステージのヒナ20羽士を数える(山部直喜)。

越谷市大吉調整池西縁 ◇7月3日午前11時、コアジサシが小魚をくわえて頭上を通過。10分ほどの観察で5羽。飛んでいく方向は越谷市西方の繁殖地方向(山部直喜)。

表紙の写真

チドリ目シギ科セイタカシギ属セイタカシギ

昨年9月30日、さいたま市内で幼鳥に出会った。近くに繁殖できるような場所の心当たりがない。どこで生まれ育ったのだろうか。

徳名貴房(さいたま市)



行事案内



エゾビタキ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。万全の熱中症対策をお願いします。

参加費:中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物:筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻:特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候、**高温予報**の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月2日(日)

詳細は8月号をご覧ください。

神奈川県・大磯町レディース探鳥会

期日：9月8日(土)

集合：午前8時半、JR大磯駅前。

交通：JR上野東京ライン大宮6:46→東海道本線東京駅7:19→大磯駅8:27着。「休日お出かけパス」が割安です。

解散：午前11時ころ、照ヶ崎海岸。

担当：菱沼(洋)、吉原(早)、藤澤、藤田、渡邊
見どころ：大磯町の照ヶ崎海岸でアオバトを観察。アオバト観察グループ「こまたん」の協力で、アオバトの生態や行動を解説。

ご注意：日陰のない海岸です。熱中症対策を万全に。小雨決行、嵐・大雨・高温中止。

女性限定。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月15日(土)午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月16日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから8:23発東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木 楠見、小菅、小林(み)、新部 島山

見どころ：留鳥+コムクドリやノビタキに期待。

長野県・白樺峠～上高地探鳥会(要予約)

期日：9月16日(日)～17日(月・祝)

詳細は8月号をご覧ください。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月17日(月・祝)

当会は、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いします。

◆ 大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分、荒川総合運動公園運動場北東側駐輪場わきの広場(横堤の下)。

解散：集合場所で、正午ころの予定。

交通：浦和駅西口②番バス乗り場から大久保浄水場行き8:33発に乗車し終点「大久保浄水場」で下車、そこから徒歩約15分。

担当：石井

その他：調査のため、参加費は不要。小雨決行。大雨や悪天候の場合は中止。

タカの渡り調査

毎年行う大切な定点観測です。初めての方も大歓迎。**雨天(小雨でも)中止**。調査のため参加費不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、各調査地点にお出かけ下さい。

◆ 中間平(ちゅうげんだいら)展望台(寄居町秋山)

日時：9月17日(月・祝)午前8時～正午。

交通：車で寄居町から294号線を東秩父方面に向かい、途中で右に入る。登る途中に老人ホーム・あきやま苑。中間平緑地公園道

路脇の展望テラス。駐車場、トイレあり。
担当：千島

見どころ：昨年の18日にはサシバ16、ハチクマ3、ツミ6、ミサゴ1、ノスリを観察。

◆天覧山展望台（飯能市）

日時：9月24日（月・振休）午前9時～正午
ころまで。雨天中止。

交通：東飯能駅西口から、7:43 または 8:03 発バスで「天覧山下」下車。少し戻り、横断歩道を渡り、坂を登る。バス停から市民会館～能仁寺～天覧山登山口を経て山頂まで徒歩約30分。滑りにくい履物で参加願います。駐車場は市民会館、8:00開場。

担当：鈴木（秀）

見どころ：タカ柱を観たいですね。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月23日（日・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:57 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:40 発で「松伏高校前」下車。松伏高校の向かい側が、集合場所です。

担当：山部、植平、佐藤、佐野、進士、野村、橋口
見どころ：今月号の特集は、このコースの紹介です。本番が楽しみです。

※松伏町中央公民館共催。中止の場合、研修室で「探鳥会コースの野鳥紹介等」を計画。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月23日（日・祝）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、島崎、鈴木（秀）、高草木、中村（祐）、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：入間川の河原と稲荷山公園で身近な鳥たちを探します。リーダーがお手伝いします。安心してお越しください。

埼玉 Young 探鳥会 & バードスケッチ会 @東京港野鳥公園（要予約）

期日：10月13日（土）

集合：午前9時、東京港野鳥公園管理事務所前。東京モノレール「流通センター駅」から徒歩15分。

解散：午後4時ころ、東京港野鳥公園内。

申し込み：野鳥の会埼玉 HP 専用応募フォームから（9月初旬に掲載予定）。

定員：10名（応募多数の場合は抽選、当落をEメールにて通知）。

担当：廣田、石塚（敬）、河邊、島崎、高崎

見どころ：野鳥画家の神戸宇孝氏を講師にバードスケッチ会を開催します。写真撮影・観察だけでは気づけなかった「鳥の動き・形」を捉え、1種類の鳥をじっくり観察するおもしろさを味わいましょう。スケッチが初めての方もこれを機に始めてみませんか？

その他：詳細は9月初旬以降HPをご確認ください。昼食持参。入園料は各自負担。スケッチ用画材（有料）もご用意します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月27日（土）～28日（日）


集合：27日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。

交通：新幹線「あさま601号」（大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:49→長野8:40着）、「かがやき503号」（大宮7:46→長野8:43着）等。

解散：28日16時頃、長野駅前。「あさま626号」（16:23発）に乗車できるように調整。

費用：12,000円の予定（1泊3食、現地バス代、旅行保険料等）。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、埼玉会員優先）。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、旅行時の年齢（保険加入に必要）、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充（）まで。9月1日消印から有効受付とします。

担当：菱沼（一）、浅見（徹）、近藤、菱沼（洋）
見どころ：この時期しか出会うことができない、ムギマキとマミチャジナイに出会う探鳥の旅。新そばの夕食も楽しみです

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



行事報告

2月25日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：26名 天気：曇

キジ カルガモ オナガガモ コガモ キンクロ
ハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カイツブリ
カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサ
ギ ダイサギ オオバン イカルチドリ セグロ
カモメ トビ ノスリ アオゲラ コチョウゲン
ボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグ
イス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ
スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン (43種) (番
外：ガビチョウ、カオジロガビチョウ) 風が弱
いので助かる。土手を歩くとオナガの群れを手始
めに、シメ、アオゲラ、ノスリ、ベニマシコ、こ
こでは初記録のカオジロガビチョウ、5年ぶりの
コチョウゲンボウまで現れて、なかなか前へ進め
ない。河川敷でオオジュリンがじっとポーズをと
ってくれ、水辺ではホオジロガモ、ミコアイサ♀、
カンムリカイツブリが見られ、カモの種類は少な
いが、満足の43種だった。(新井 巖)

3月3日(土) 戸田市 彩湖

参加：33名 天気：晴

カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ
ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイ
ツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ
アオサギ オオバン ユリカモメ セグロカモメ
トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エ
ナガ ヒレンジャク ムクドリ ツグミ ジョウ
ビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベ
ニマシコ シメ ホオジロ アオジ (35種) (番
外：ドバト、ガビチョウ) 大規模な「マラソン
大会」と重なってしまった。少々厳しい条件での
開催に、“バードウォッチングの神様?”のプレゼ
ントは、スタート時のヒレンジャク! この日一番
の盛り上がりとなった。(石塚敬二郎)

3月3日(土) 行田市 さきたま古墳公園

参加：25名 天気：晴

キジ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダ
イサギ クイナ バン タシギ オオタカ コゲ
ラ チョウゲンボウ モズ オナガ ミヤマガラ
ス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ
シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エ
ナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ
スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (35
種) 穏やかな天気。まずはエナガから始まるカ
ラ混群、神社の林ではオオタカ。川沿いの遊歩道
ではクイナ、バン、オオジュリンなど。サギたち
も婚姻色に移行中。チョウゲンボウが飛び、オオ
タカとカラスのバトルを皆で見た。(相原修一)

3月4日(日) 寄居町 玉淀河原

参加：35名 天気：快晴

マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワ
ウ アオサギ イカルチドリ クサシギ トビ
ハイタカ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ
チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグ
イス エナガ メジロ ツグミ ジョウビタキ
イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセクレ
イ セグロセキレイ カワラヒワ シメ (33種)
(番外：ドバト、ガビチョウ) 集合時に付近の
中継所鉄塔にチョウゲンボウが2羽、そして、駅
前にイソヒヨドリ。出発後にもチョウゲンボウが
さらに2羽加わった。河原ではカモ類はマガモ、
カルガモのみ。イカルチドリ、クサシギが川面を
行き交っていた。荒川沿いではウグイスの初鳴き
もあり、ほかの小鳥たちも賑やかにしていた。玉
淀河原は静か。橋をわたり鉢形城址入口へ移動。
観察種数は33で満足。(茂木幸蔵)

3月4日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：61名 天気：晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト
カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ
オオバン ハイタカ オオタカ ノスリ ハヤブ
サ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シ
ジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツ
グミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホオジ

ロ カシラダカ アオジ オオジュリン (33種)
 (番外:ドバト) 暖かい陽気。まだ上手ではないが、ウグイスの囀りも聴くことができた。猛禽類もオオタカ・ハイタカ・ノスリ・ハヤブサ! オオジュリンが多く見られた。アオジ・ホオジロ・カシラダカもちゃんと出現。最後には、ベニマシコが出て皆大騒ぎ。じっくり見る事ができた。やはり赤い鳥は人気者。見つけてくれた方ありがとうございます! 黒浜沼は最高だ。(青木正俊)

3月6日(火) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加:44名 天気:晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ トビ オオタカ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ ビンズイ イカル (23種) (番外:ガビチョウ) 保全作業で人や車が動いており、野鳥の声も姿もいつもより少なく感じた。まずは梅園で見ごろとなっている梅や福寿草の花を楽しんだ。その後もなかなか野鳥が出てこなかったが、地上で餌を探すビンズイをゆっくり観ることができた。山田大沼は遊歩道の工事中でカモは遠かった。(中村豊己)

3月10日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加:29名 天気:曇

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ (32種+タシギ属不明種) 第9回見沼たんぼクリーン大作戦に参戦。スコープ持参の2名に鳥探しをお願いし、他はポリ袋とゴミ挟みを手にゴミ拾い。それでも、春を告げるヒバリやウグイスの囀りを楽しんだり、色づいたキジに出会ったり。最後に、綺麗な繁殖羽になったトモエガモをじっくり観察。集合写真では、皆さんイイ笑顔。(浅見 徹)

3月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:38名 天気:快晴

コジュケイ キジバト カワウ アオサギ ミサゴ トビ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ ヒレンジャク ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外:ガビチョウ) 本日は東日本大震災から7年目。大麻生駅をスタートして踏切を渡り、土手上から冬鳥たちの姿を数多く観察できた。河原の方に進むと、梢にイカルが20羽ほどと、シメも隣の木に止まっていた。河原に出てみると水辺には鳥影もないと思いきや、上空をミサゴが旋回し近づいてきた。反対側の木にはオオタカが佇んでいた。野鳥の森に入ったが、小鳥の鳴き声はすれども姿が少ない、グラウンド広場近くまで進み待望のヒレンジャクが20羽、シメも近くに群れていた。カメラマンも10名ほどいた。池の周りではカワセミ、シロハラ、ヤマガラがリストに加わった。(茂木幸哉)

3月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:10名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、吉原早苗、吉原俊雄

3月18日(日) さいたま市 三室地区

参加:51名 天気:晴

オカヨシガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン コチドリ オオタカ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (28種) (番外:ドバト) 長袖を着ていると少し暑いくらいのぽかぽか陽気。この時期は冬鳥が減り夏鳥はまだ来ない谷間。観察種は少ないが、この時期ならではの現象がたっぷり見られた! それは、恋のシーズン。ハシブトガラスのオスとメスのラブラブシーン。見ていると暖かい気持ちになれる。またホオジロの縄張り争いで3羽のオスがバトルを繰り返す。来月からはよいよ夏鳥がやってくる。楽しみだ!

(青木正俊)

3月21日(水、祝) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 6名 天気: 曇後雪

カワアイサ キジバト イカルチドリ トビ コゲラ モズ カケス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクドリ カワガラス スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ホオジロ (23種) (番外: ドバト) 東武日光駅から徒歩で探鳥をスタート。霧降大橋を渡って大谷川を遡り、東照宮裏山に入った。開始時は明るい曇り空だったが、途中から細かい雪がチラつき始めた。それでも鳥たちは飛び回り、地鳴きや囀りが楽しめた。雪降る中での鳥見も良いものだ。(浅見 徹)

3月21日(水、祝) 松伏町 松伏記念公園

雨のため中止。(山部直喜)

3月22日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 26名 天気: 曇

キジ オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ バン オオバン コチドリ トビ アリスイ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (43種) 開始直後にアリスイ登場で盛り上がる。池の小島ではアオサギの営巣が始まり、トビも巣作り中でハンガーも使われている。上空にはハヤブサ、チョウゲンボウが無い、ヨシ原にはベニマシコ♀やアオジ、オオジュリンもたくさんいる。ヨシガモやジョウビタキ、シメなどの冬鳥に別れを告げ探鳥会を終わる。(相原修一)

3月24日(土) 秩父市 秩父ミュージアムパーク

参加: 60名 天気: 晴

カワウ トビ コゲラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ カワラヒワ マヒワ ウソ ホオジロ カシラダカ アオジ (22種) (番

外: ドバト) 朝の挨拶を始めようとしているとウソの声。姿を半数くらいが確認。満開の梅園を通してせせらぎ広場へ。30羽以上のマヒワの群れが現れる。武甲見広場で温かい日差しの下で昼食。その間もマヒワの群れが飛び回り、上空をイワツバメが飛び交う。帰途には、ツグミや夏羽に変わりつつあるカシラダカ。天気にも恵まれ春の一日を堪能。都内や千葉など遠方からの参加者も多く、秩父の魅力あらためて感じた。(長野誠治)

3月25日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 51名 天気: 晴

コジュケイ キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン タゲリ コチドリ ツルシギ イソシギ セグロカモメ トビ チュウヒ ノスリ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ニュウナイスズメ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (49種) (番外: ドバト、コウノトリ) 干し上げ中の谷中湖にはカモやサギに加えてコウノトリが! 野田生まれの“ひかる”のようだ。中の島では珍しくニュウナイスズメが、そしてここから東谷中橋までは、オオジュリンやベニマシコがよく見られた。(佐野和宏)

3月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 30名 天気: 快晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ コチドリ イソシギ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ オオジュリン (33種) (番外: ドバト) 毎年3月は、コチドリ、ツバメ、カタクリの3つを楽しみにしている。残念ながらツバメだけが参考記録となってしまった。3回連続記録中のイソヒヨドリは記録なし。次回、さえずりとともに登場願いたい。(長谷部謙二)



● 熱中症対策で探鳥会中止

連日の猛暑と熱中症の報道などを受けて海老原美夫代表と長野誠治普及部長が話し合い、7月19日(金)長野普及部長がメールアドレスを把握している役員に対し「暑さ指数(WBGT)が『危険』の場合は探鳥会を原則中止する」などのガイドラインを伝え、当会HPにも探鳥会中止の場合があることを掲載しました。

それにより、「危険」レベルだった7月22日(日)狭山市入間川と8月5日(日)北本市石戸宿の探鳥会が中止されました(8月15日現在で)。

WBGTとは、熱中症予防のために1954年にアメリカで提案された指標で、単位は「℃」ですが「気温」だけを示すものではなく、「湿度」と「日射輻射など周辺の熱環境」も取り入れた指数です。28℃「嚴重警戒」を超えると熱中症患者が著しく増加し、31℃以上は「危険」です。気象庁の「暑さ指数」を、日本気象協会は「熱中症情報」として発表しています。

間に合う場合は、個々の探鳥会中止を事前に当会HPでお知らせします。「探鳥会」「今月の探鳥会」の「こちら」から、「熱中症情報」を見ることができます。

● (公財)山階鳥類研究所からのお知らせ

1, 一下村兼司生誕115周年-100年前にカワセミを撮った男・写真展 9月21日(金)-26日(水)。11:00-19:00(最終日16:00まで)。入場無料。有楽町朝日ギャラリー(JR有楽町駅前マリオン11F)。

2, 第20回山階義麿賞記念シンポジウム「コウノトリ野生復帰と生物多様性の保全～鳥類生態学と応用生体工学の出会い～」9月26日(土)13:30～16:00(開場12:30)。東京大学農学部弥

生講堂。参加費:無料。申込み:不要。講演:「日本の人と自然～野生復帰からみえてくるもの～」江崎保男(兵庫県立大学教授/兵庫県立コウノトリの郷)ほか。定員300名(先着順)。

いずれも詳細は同研究所HPのイベント情報をご覧ください。

● ごめんなさいコーナー

前月号2ページ[広報活動関係]IT委員会(委員長:浅見徹)は、(委員長:佐野和宏)の誤りでした。

● 会員数は

8月1日現在1,619人です。

活動と予定

● 7月の活動

7月14日(土)8月号校正(海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、長嶋宏之、藤掛保司)。

7月15日(日)役員会(司会:佐野和宏、各部の報告・調査部データベース運用ガイドライン・行事予定変更など)。

7月23日(月)『野鳥』誌と同封送しない会員向け、『しらこぼと』8月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 9月の予定

9月1日(土)普及部会。編集部会。

9月8日(土)10月号校正(午後4時から)。

9月15日(土)袋づめの会(午後3時から)。

9月16日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

都内の公園にトンボを撮りに出かけたときのこと。昨日珍しい鳥が出たとかでカメラマンが数人。帰りがけに聞いてみると、何とブッポウソウだった。池の上を飛びながらツバメみたいに水を飲んでいたりとか。幸い梢にとまっていたところをみる事ができたが、すぐ飛んでしまった。(藤原)

しらこぼと 2018年9月号(第414号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに掲載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社